ウルトラマンレオ２

daisy

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

地球へ帰ってきたウルトラマンレオ。敵を倒したゲンはトオルと共に時空の裂け目に吸い込まれ……

目　次

1. 地球外惑星 ―― 1

1．地球外惑星

満開の桜の下、一人旅立つゲン。
「本当に行ってしまうの?」とあゆみ。
「おおとりさん。私たちはね、もしも、もしもよ。あなたが他の星の人でもちっとも気にしてないのよ」と咲子。
「私の知っているおおとりさんは宇宙人なんかじゃないわ。私たちと同じ血の流れている人間よ」といずみ。
「ありがとう。僕にとってその言葉は一生忘れることができません。やっと今、この地球が僕の故郷になったのです。だから、青い空と青い海のある故郷を、この目で見て、この手で確かめてみたいんです」。
獅子の瞳を指から外すゲン。
「必ず帰ってきてね」とトオル。
「気をつけてね」と咲子。
「おおとりさーん」。
ゲンを追いかけて走り出すトオル。
海まで走ってきたトオル。
「おおとりさーん」。
ゲンの乗るヨットに手を振るトオル。
「おおとりさーん」とトオル。
「さようならー」とゲン。
あれから四十年、ウルトラマンレオは地球の近くまで来ていた。
宇宙から地球を見ていると、レオの横を巨大隕石が通り抜け、地球へと落下していった。
レオは直ぐに追い掛け、隕石に光線を放った。
隕石は爆発し、中から地球外生命体が現れた。
生命体は地上に降り立ち、町に火を放った。
燃え盛る建物。
逃げ惑う人々。
レオは生命体に飛び蹴りを浴びせた。
蹌踉(よろ)めく生命体。

レオは飛び上がり、レオキックを生命体に浴びせて粉砕する。
そこへ飛んで来る戦闘機。
戦闘機には五十代くらいの男が乗っていた。
その男の名は梅田（うめだ）　トオル。
レオは直ぐに彼だと分かった。
「久し振りだな、トオル。もう四十年になるのか」
「おおとりさん！」
レオはゲンの姿になり、着陸して降りてきたトオルと抱き合った。
「おおとりさん、どうして地球へ？」
「呼ばれたんだ」
「呼ばれたって？」
「誰かにね」
その時、上空に時空の裂け目が現れる。
「「え？」」
二人の体は宙に浮き上がり、裂け目へと吸い込まれて行く。
「うわ！」
「いて！」
裂け目に吸い込まれた二人は、どこかの地面へと叩き付けられた。
立ち上がり、辺りを見渡す。
そこへ集まって来る人々。
「あんたら見ねえ顔だな。どこから来た？」
ゲンは上空を指差す。しかしそこに裂け目はなかった。
「ここは地球ですか？」
「地球？　何だそれは？」
「僕たち、地球って惑星（ほし）から来たんだ」
「ここは何て言う惑星ですか？」
「ここはイサトって惑星だが、あんたら宇宙人か？」
「イサト……？」
聞かない名だった。
「ここが地球でないのなら僕らは宇宙人になるよ」
「そうか。この惑星には何の用なんだ？」

「用があって来たわけじゃないんです。時空の裂け目に飲み込まれて、気付いたらここへ」
「神隠しにあったのか。ここじゃ何だ、我々の村へ来い」
ゲンとトオルは村へ案内された。